医療ソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけと課題

鈴木裕介[1]

(2012年9月28日受付，2012年12月18日受理)

Psychological Support's Position in Medical Social Work and its Issues

Yusuke SUZUKI[1]

(Received: September 28. 2012, Accepted: December 18. 2012)

要　旨

本稿は，医療ソーシャルワーク実践と専門性に対する問題意識からソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけについて検討した．その結果，ソーシャルワークにおける心理的援助は，明確な定義はないが，一般的にカウンセリングを意味することが明らかになった．ソーシャルワークにおけるカウンセリングの位置づけは，①ソーシャルワークは，カウンセリングを内包する，②ソーシャルワークは，カウンセリングを面接の一技術と捉える，と整理できた．医療機関におけるソーシャルワークについて考察すると，医療ソーシャルワーカーは，疾病の受容困難時や，社会資源等の具体的サービスの結びつけの援助に対して，生活面に焦点を当てたカウンセリングが必要であることが示唆された．但し，本稿は，社会福祉士養成課程における代表的なテキストや辞書を中心に用語の整理を行ったため，直ちに定義づけることは難しく，示唆に留まるものであり，さらに精緻化する必要がある．

キーワード：医療ソーシャルワーク，心理的援助，カウンセリング

Abstract

This paper examines psychological support's position in social work from the awareness of issues surrounding social work practice and expertise. As a result, it was found that while the term "psychological support" in social work lacks a clear definition, it is generally taken to mean counseling. The position of counseling in social work can be summarized as follows: 1. social work includes counseling, and 2. social work understands counseling as a technique for conducting interviews. An examination of social work at medical facilities suggested that medical social workers need to utilize the type of counseling focused on the daily lives of patients, in terms of providing support for when they have difficulty accepting an illness, or helping them connect with specific services, such as social resources. However, having investigated the terminology from textbooks and dictionaries that are typically used in social welfare worker training programs, the difficulty of reaching a straightforward definition became apparent, with definitions amounting to little more than suggestions, highlighting the need for further elaboration.

Keywords: Medical social work, Psychological support, Counseling

---

1　高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程/高知県立大学社会福祉学部社会福祉学科・助教・修士(社会福祉学)
Department of Social Welfare, Faculty of Social Welfare, University of Kochi, Assistant Professor (Master of Social Welfare)

Ⅰ．研究の背景

2005（平成17）年に政府・与党医療改革協議会おいて,「医療制度改革大綱」が取りまとめられた．基本方針は，①安心・信頼の医療の確保と予防の重視，②医療費適正化の総合的な推進，③超高齢社会を展望した新たな医療保険制度体系の実現，となっている．その後，2006（平成18）年に「健康保険法等の一部を改正する法律」,「良質な医療を提供する体制を確保するための医療法等の一部を改正する法律」が成立し，医療制度改革が推進された．

医療ソーシャルワーカー（以下，MSW）は，これらの保健医療政策の影響を受けながらソーシャルワーク実践を展開している．一連の医療改革においてMSWが特に，影響を受ける改革内容については,「医療費適正化の総合的推進としての平均在院日数短縮」と「医療機能の分化・連携の推進」が挙げられる．具体的には，急性期から在宅まで切れ目なく医療サービスを受けることができるように医療機関や介護保険関連サービス・施設等の社会資源，サービス，機会を結びつける業務が増加した．これは，ソーシャルワークの仲介機能が以前にも増して重要視されるようになった現状を示している．

その背景には,保健医療政策の影響ともう一つ,仲介機能は可視化しやすいことを挙げられる．MSWは，病棟機能によって，援助できる期間は制約され,特に急性期疾患を対象とした病棟では,医師や病院管理者から，早期転・退院先の選定や介護保険のサービス調整等，迅速な援助と結果を絶えず求められる．仲介機能は，具体的サービスが存在し，援助した結果も物理的に理解でき，医師や病院管理者，さらにその他スタッフ等，誰にでも説明することができ，また相手にも伝わりやすい．

保健医療政策が大きく変化するなか，MSWの雇用は，増加傾向にあり（熊谷ら2005），医師や病院管理者からの役割期待に応えているといえるだろう．また，MSWは，患者満足度にも貢献している（加藤ら2002；榊原2012）．

一方で，MSWは，ソーシャルワーク実践に様々な困難を感じており（杉浦2006），その一つにソーシャルワークの専門性の曖昧さ,換言すれば,ソーシャルワーク理論とソーシャルワーク実践の乖離を挙げることができる．

MSWが行う業務を病院管理者等，関係者への理解促進のために策定された「医療ソーシャルワーカー業務指針（以下，MSW業務指針）」のなかで，MSWは，「病院等の保健医療の場において,社会福祉の立場から患者のかかえる経済的,心理的・社会的問題の解決，調整を援助し，社会復帰の促進を図る」と明記されており，心理的・社会的両面の問題解決の役割が求められている．

また,ソーシャルワーク理論史からみても,ケースワークの母とされるRichmondが,「ソーシャル・ケース・ワークは人間と社会環境との間を個別に，意識的に調整することを通じてパーソナリティを発達させる諸過程からなり立っている」（Richmond＝1991：57）と述べていることからもわかるように，ソーシャルワークの萌芽期から人と環境のインターフェイスに焦点を当て，援助することに視座を置いていた．

その後，ソーシャルワークは，先述した視座を保持しつつも,「時代状況において，主として「人間」に関心を寄せるか，それとも「環境」に関心を寄せるかが見られ」（佐藤1994：16），岡本は,「ソーシャルワークの対象認識は個人か社会かの両極を振り子のごとく右往左往するという歴史を繰り返してきた」(岡本1990：87)と指摘している．

ソーシャルワーク理論は，1960年代にBandlerによって生活モデルが提唱され（中村1990：17），1980年に刊行されたGermainとGittermanの「The Life Model Of Social Work」によって，生態学視点の体系化が試みられて，人と環境の交互作用（transaction）に焦点を当てる「ライフモデル」は，ソーシャルワーク理論に多大な影響を及ぼした．

MSW業務指針には，明快に「人と環境の交互作用（transaction）に焦点を当て援助を行う」とは明記されていないが，社会福祉学を基礎学問とし，「心理的・社会的問題の解決，調整を援助」するとあるので，この記載を「人と環境の交互作用（transaction）に焦点を当てて援助する」と読み込んでも差し支えないだろう．

しかし，先述したように，医療機関におけるソーシャルワーク実践について着目すると現在は，「社会資源，サービス，機会を結びつける仲介機能すなわち，環境介入」（Dubois&Miley1996）に比重が置かれていると捉えることができ，人と環境の交互作用（transaction）に焦点を当てているとは言い難い状況である．

医療機関では，疾病に罹患することによって，疾病の受容，家族内における役割の変化，社会的役割の変化，また，社会資源を結びつけることを主たる目的とする業務，具体的には，疾病を原因とする経済的困窮，今後の療養計画等，多くの場面で患者・家族の不安感，喪失感に対して心理的援助の必要性がある．すなわち，どのような援助を実践する場合も人の意思や感情に寄り添うことが重要だといえる．

しかし，心理的援助は，可視化しにくく，その援助結果もみえにくいことやMSWの業務優先順位から考えると医療機関において心理的援助を実践することは，非常に困難な状況であると予想されるが，このような状況だからこそ，その重要性について認識し，実践することが求められよう．

保健医療政策の影響を受けたのは医療現場において，MSWだけではなく，当然，他職種も影響を受けている．例えば，従来は，MSWがほぼ独占的に社会資源等の紹介・結び付けの業務を行っていたが，近年，退院調整看護師の増加に見られるようにMSWの独壇場ではなくなっており，あらためて「医療機関におけるソーシャルワーカーの専門性とは何か」について再考することは，重要である．

他職種と連携・協働して業務を遂行することは，当然であるが，そこには専門性の差異が明らかになっていることが前提となる．この差異が曖昧なままで援助するということは，専門性の欠如した援助になってしまう．

堀越は，MSWの専門性について「ソーシャルワークの分野，技術や技能，方法，そして“視座”さえもソーシャルワーカーだけのものではない」（堀越1999：22）と危惧し，「ソーシャルワークの経済的効率と質保障の両立を証明することは急務であり，さもなければ診療報酬制度に直結した医療専門職によるソーシャルワーク（的）業務にとって代わられる可能性もゼロではない」（堀越1999：25）と警鐘を鳴らしている．さらに，堀越は，医療現場でソーシャルワーカーが存続するためには，「多様なレベルにおけるソーシャルワークの実践に必要な技術／技能をしっかりと身につけ，それを用いて実践する」（堀越1999：25）ことが重要であると指摘している．

現在，日本の保健医療政策は，「医療制度改革大綱」や，度重なる医療法改正にみられるように，目まぐるしく変化しており，MSWは，時代の要請に答えつつも，普遍的な実践は揺るがず，堅持することが重要である．

以上のことから，実践現場にて，ソーシャルワークの専門性を明確にしていくことは，早急の課題と言えるだろう．

Ⅱ．研究の目的

先述した背景をもとに，本稿は，MSWが実践するソーシャルワークおいて，伝統的に実践されてきた援助機能である心理的援助に焦点を当て，用語の整理を行い，考察することを目的とする．

本研究の意義は，MSWが実践する心理的援助の実践プロセスを明らかにするための基礎研究となることである．これまで，MSWは心理的援助を行うことが自明の理として語られることが多かったが，MSWが対応すべき心理的援助とはどのような援助なのか，その実態に関しては不明瞭

であり，実践者によって，その捉え方が異なる．

そこで，本稿は，どのようにソーシャルワークのなかに心理的援助が位置づいているかを整理し，この不明瞭な部分を明らかにすることを目的として文献検討を行う．

Ⅲ．文献検討

1．ソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけ

社会福祉士養成課程における代表的なテキストである社会福祉士養成講座編集委員会編の「相談援助の基盤と専門職　第2版」，「相談援助の理論と方法Ⅰ　第2版」，「相談援助の理論と方法Ⅱ　第2版」，「心理学理論と心理的支援　第2版」と社会福祉学の総合的な辞書である「エンサイクロペディア社会福祉学」，その他，ミネルヴァ書房の「社会福祉用語辞典　第6版」，大月書店の「社会福祉辞典」，全国社会福祉協議会が発行している「現代社会福祉辞典　改訂新版」を用いて心理的援助について検討した．なお，用語の著者が不明だった有斐閣の「現代社会福祉辞典」と中央法規の「社会福祉用語辞典」は文献から除外した．

その結果，索引に心理的援助という項目があるテキスト及び辞書は一つも確認できなかった．

次に，テキストの章立て，解説内容から，心理的援助に関連もしくは，類似する概念について検討した．

「相談援助の基盤と専門職　第2版」では，地域を基盤としたソーシャルワークの機能を5つ分けて解説しているが，そのなかに心理的援助に関する機能については確認できなかった（岩間2010：190）．

「相談援助の理論と方法Ⅰ　第2版」は，英国ソーシャルワーカー協会が刊行した「ソーシャルワークの課業―ソーシャル・ワーカーの役割とは何か」を引用し，役割のなかに，カウンセラーの役割があること紹介している（白澤2010：46-47）．

また，面接場面について着目すると面接の基本姿勢としてカウンセリングの「無条件の積極的関心」「共感的理解」「純粋性」を重要な要素として，紹介しているのみである（山辺2011：248）．面接に用いる技術に，観察（非言語のメッセージの理解），傾聴，共感，支持，質問，焦点づけと方向づけのための基本的応答技法を挙げている（山辺2011：255-258）が，心理学からの影響については言及されていない．

「相談援助の理論と方法Ⅱ　第2版」は，ソーシャルワークアプローチの一つとして，心理社会的アプローチを紹介している（中村2011：144-146）．また，ケースマネジメントは，身体・心理・社会的アプローチ（bio-psycho-social approach）を実施することに特徴があるとしている（白澤2011：45）．

「心理学理論と心理的支援　第2版」は，「はじめに」にて，「心理学は，社会福祉の周辺領域あるいは社会福祉を実践するための補助的な学問という位置づけではなく，社会福祉学を構成する重要な要素として見直さなければならない．すなわち，単に心理学の領域で構築された理論や開発された技術を社会福祉にも適応してみるという後追いの姿勢（借り物の姿勢）ではなく，社会福祉の領域で人間の心理面を視野に入れた新しい理論の構築・技術の開発を行うという姿勢で研究・実践がなされる時代になった」（中島2011）と述べて，社会福祉学に必要な独自の心理的理論を導入する必要性について指摘している．また，面接場面において，「クライエントに計画的で体系的な心理的援助，すなわち心理療法的援助が必要な場合には，「心理療法」としての面接が行われる」（針塚2011：173）と述べており，ここでは，心理的援助と心理療法は同義に使用されている．また，カウンセリングとソーシャルワークの関係性，カウンセリングと心理療法の関係性について言及している（針塚2011：174-179）．この関係性について要約すると，それぞれの違いを明確にすることは難しいと述べたうえで，心理療法の一部としてカウンセリングは位置づけている．また，ソーシャ

ルワークは，Rogersが開発した「非支持的カウンセリング」を用いて，クライエントの自己理解と自己一致を促し，自己実現が可能となるような援助をすると述べている．

以上，ここまでについて整理すると，ソーシャルワークにおける心理的援助について明確な定義はなかった．その原因の一つとして，ソーシャルワーク，心理療法，カウンセリングの境界が曖昧であることを挙げることができる．相談援助関連のテキストで心理学の影響について多くは言及されていないが，その内容からは，Rogersの「非指示的カウンセリング」からの影響を受けていることが確認できた．

これらの整理したことをさらに詳細にみていくために，次項は，心理的援助と関連性が高い「心理療法」，「カウンセリング」の項目について概観する．また，これまで検討した文献を参照して，重要な論点を提供していると思われる論文を追加収集し，それらの文献からソーシャルワークとの関係性について整理する．

2．心理的援助に関連する概念

ここでは，心理的援助に関連する概念がどのように定義されているのかを概観し，用語の整理を行う．文献は，先述した社会福祉学系の辞書と併用して，心理学系の辞書である八千代出版の「臨床心理学辞典」，ミネルヴァ書房の「発達心理学辞典」，誠信書房の「カウンセリング辞典」，新曜社の「カウンセリング辞典」を用いた．

（1）心理療法

「臨床心理学辞典」は，「精神療法に同じ．神経症であれ精神病であれ，または病気と呼ばれる範疇には属さない問題であれ，主として情緒的問題を持つ人々，基本的に自らの生き方を問うている人々に，心理的な手段，コミュニケーション（言語的，非言語的を問わず）を媒介として援助を与えるやり方をいう．…（略）…病気（心および身体を含む）の治療という，病理的な面の改善修正にかかわると同時に，心理社会的な意味でより生産的建設的なその個人の生活そのものの改善，新しい生活の実現を目指す」（佐治1999：278）としている．

「発達心理学辞典」は，「心理治療は，心理療法また精神療法ともいう．精神療法はおもに精神医学の領域で使われているのに対して，前者の2つは心理学の領域で使われているといってよい．…（略）…心理療法はさまざまの技法を使って，苦しみを軽減したり，リハビリに努めたり，方向性を見いだす努力をしたりする」としている．（鑪1995：361）．

誠信書房の「カウンセリング辞典」は，「心理療法という言葉には二つの意味が含まれている．一つは，症状や障害が心理的なものである，あるいはその原因が心理的素因であるときの症状や障害を，治療，矯正，変容する技法であるとする考え方である．他の一つは，治療，矯正する技法が心理的な方法による治療技法であるとする見方である．したがって心理的方法というのは，従来は専ら言語的コミュニケーションの手段，つまり面接相談を指していたが，近年は行動，反応を用いる場合も心理的方法とみなされるようになった」（原野1990：305）としている．

新曜社の「カウンセリング辞典」は，「悩みや問題の解決のために来談した人に対して，専門的な訓練を受けた者が，主として心理的な接近法によって，可能な限り来談者の全存在に対する配慮をもちつつ，来談者が人生の過程を発見的に歩むのを援助すること」と河合隼雄の定義を引用し，続けて，「心理療法（精神療法）は神経症の症状の除去という実際的な目的をもって始められたものであり，…（略）…心理的な方法を用いて，来談者のメンタル・ヘルスと人生の歩みかたを援助しようとするのである」（遠藤1993：122）としている．

「エンサイクロペディア社会福祉学」は，ソーシャルワークの体系の関連領域に心理療法とカウンセリングを位置付けており，「心理療法（サイ

コセラピー）は病理的なパーソナリティや逸脱行動の変容を目的としており，心理テストや描画などを用いながら言語や非言語では表現されにくい無意識レベルの分析を中心に行う」（倉石2007：654）としている．

「社会福祉用語辞典　第6版」は，「来談者と治療者との人格的関わりを基本として，心理的諸技術を用いながら来談者の人格的成長を促す援助法であり，精神療法とほぼ同義とされる．代表的な理論としては，精神分析療法，来談者中心療法，行動療法があり，それぞれ精神分析理論，現象学的自己理論，学習理論に基づいて，人格変容や行動変容をすすめる技法が発達している」（松島2007：209）としている．

「社会福祉辞典」は，「心理的問題や疾患に対して面接などにより改善を図る方法を心理療法という．慣習的臨床心理学では心理療法といい，精神医学では精神療法ということが多い．アプローチの仕方により，感情表出，受容共感，アドバイスなどを中心にした指示的療法，さらに深く内面を探り，解釈などを行う洞察的療法に分けることもある」（水野2002：305）としている．

（2）カウンセリング

「臨床心理学辞典」は，「悩みや問題を解決するために来談した人（クライエント）に対して，心理臨床の訓練を受けた専門家であるカウンセラー（心理臨床家）が，来談者を尊重し配慮しながら，主として言語による心理的交流を通して，問題を解決したり人間的に成長したりするのを援助すること…（略）…カウンセリングの目的を行動変容と見た場合，『治る』ことを目的とする治療的カウンセリングと，『育つ』ことを目的とする開発的カウンセリングがある」とし，カウンセリングと心理療法の差異については，「カウンセリングと心理療法をかなり区別する立場と，ほぼ同じとみなす立場があるが，普通，カウンセリングはより健康な人を対象と考える」（大澤1999：71）としている．

「発達心理学辞典」は，「発達的問題，情緒的問題，あるいは適応上の問題を持ち，その解決のために援助を必要とする個人（＝クライエント）と，その個人に援助をしようとする，専門的訓練を受けた専門家（カウンセラー）とが，面接をし，一定の人間関係を維持していくなかで，心理的影響をあたえていく過程である」（田畑1995：88）としている．

誠信書房の「カウンセリング辞典」は，「カウンセリングとは言語的および非言語的コミュニケーションを通して，健常者の行動変容を試みる人間関係である」としている．また，類似性があるのものとして，サイコセラピーとソーシャルワークをとりあげ，サイコセラピーは「病理的なパーソナリティの変容を目的」とし，ソーシャルワークは「公的扶助など，現実的・具体的援助を考える」とその差について説明している（國分1990：77-8）．

新曜社の「カウンセリング辞典」は，「クライエントに対して，面接やグループ・ワークによる言語的または非言語的コミュニケーションを通じての心理的相互作用（人間関係）によって，行動や考え方の変容を試みる援助の方法であり，クライエントの人格的統合の水準を高めるための心理的方法．…（略）…クライエントがみずからの人格的成長，人格的統合を行うことを援助することにある」（小林1993：36）としている．

「エンサイクロペディア社会福祉学」は，「カウンセリングの中心的機能は利用者との間に治療的コミュニケーションをつくり上げることである．治療的コミュニケーションとは，利用者の洞察や気づきの機会を言語的または非言語的コミュニケーションを通して意図的につくり，生活上の苦悩を軽減したり解決することを目的としたものである」（倉石2007：654）としている．また，ソーシャルワークとカウンセリングについて対比しており，ソーシャルワークが利用者のパーソナリティの安定と社会環境の変革を目的としているのに対して，カウンセリングは利用者の自己変容と

図り，社会への適応を目指す（倉石2007：654）と目的の差異について指摘している．また，Aptekar（1955）を参照して，ソーシャルワーク，カウンセリング，心理療法は，各々独立した部分をもちながらも，人間への心理的援助を主たる働きの一つとしている（倉石2007：654）．

「社会福祉用語辞典　第6版」は，「適応上の問題に関して心理的援助を必要としている来談者に，この援助に必要な専門的な知識，技法，資質をもった相談者が面接し，主に言語的手段によって，問題解決を援助する過程をいう．ロジャーズ（Rogers, C. R.）の来談者中心療法以来，現代カウンセリングでは心理療法的側面の意味合いが強調され，狭義には心理療法と同義語として用いられる．一般的には心理療法が人格の深層に関わるのに対して，カウンセリングは人格の比較的表層部分と関わり，相談，指導，ガイダンスなどによって生活上の適応問題の解決を目指すものといえる」（松島2007：40）としている．

「社会福祉辞典」は，「生活のなかでの困難や適応上の問題を抱えたクライエント（来談者）に対する心理的援助方法の一つで，クライエントの問題解決ならびに人間成長を，言語的および非言語的コミュニケーションとクライエント自らの行動変容を通して試みる，クライエントと援助者との関係である．カウンセリングの概念は，狭義にはクライエントのパーソナリティの再構成への援助，つまり治療が主としてとらえられ，広義にはパーソナリティの成長と統一に焦点があてられる」（緒方2002：59-60）としている．

以上の結果を整理すると，「心理療法」は，心理について援助を行うという広範囲にわたる概念であり抽象度も高く，端的に整理することが難しいため，心理的援助全般と捉えることができる．唯一，「エンサイクロペディア社会福祉学」は，目的を絞っており，病理的なパーソナリティや逸脱行為の変容としている．

「カウンセリング」は，専門的な訓練を受けたカウンセラーが，言語的，または非言語的コミュケーション（傾聴，助言，情報提供，指示，解釈等の技法）を用いて，クライエントみずからの人格的成長，心理的安定，生活適応の問題に対して援助することと整理することができる．

「カウンセリング」の項目は，いくつか，心理療法との差異について言及されている．「心理療法」は，人格の深層への援助，「カウンセリング」は，比較的健康で，人格の表層への援助と整理することができる．

ソーシャルワークにおける心理的援助について，テキストと辞書を用いて整理した結果，心理的援助は心理療法を含めた広範囲な概念であり，端的に定義することは困難である．ただし，ソーシャルワークから捉える心理的援助とは，数ある心理的援助方法のなかの，カウンセリングを意味していると整理することができる．そこで，次項は，ソーシャルワークとカウンセリングの関係について整理する．

3．ソーシャルワークとカウンセリングの関係

宮川は，社会福祉およびソーシャルワークのなかでのカウンセリングの位置づけに関して，極めて大きな影響をあたえた人物に，Aptekar を挙げている（宮川2004：48）．また，「エンサイクロペディア社会福祉学」でも Aptekar を引用している（倉石2007：654）．

そこで，Aptekar, H. H（1955）*The Dynamics Of Casework And Counseling*. Houghton Mifflin Company.（＝1964，坪上宏訳『ケースワークとカウンセリング』誠信書房.）を概観後，日本で，これらの内容について言及している論者について取りあげる．原著では，「ケースワーク」と記述があるものについて，本稿との全体的な調整をとるため，直接引用する場合は，「ケースワーク」，それ以外は「ソーシャルワーク」を用いる．

（1）Aptekar によるソーシャルワークとカウンセリングの関係

Aptekar は，ソーシャルワーカーが自分自身の実践について「ソーシャルワーク」を行っている

のか，「カウンセリング」を行っているのか区別していない状況について，問題意識を持ち，本書を著述した（Aptekar＝1964：11-12）.

Aptekarは，ソーシャルワークを，カウンセリング，心理療法と多く一致する点があるとしたうえで，「ケースワーカーが伝統的に実践してきた社会的な機関において，財政的援助，里親や委託保護および家政婦のサービス，といったように個々の領域に専門化した社会サービスが行われているという事実のなかにみいだすことができる．…（略）…機関の絶対多数が社会サービスを行っており，それを行う責任を担っているのは，機関が雇傭するケースワーカーである．この事実がケースワークをカウンセリングと心理療法から区別するものと考えられる」（Aptekar＝1964：109-110）としている．また，カウンセリングは，「ケースワークと違ってカウンセリングは，私的に，そしてまた機関の資源を頼る必要なしに行うことができる．…（略）…具体的サービスを伴わないケースワークとして考えてさしつかえないだろう…（略）…カウンセリングとは，自分では解決できないことがわかり，それゆえに知識，経験および一般的方向づけをその解決の企てに活用できる有能な人の援助を求めるような問題について，その解決をめざした，個人に対する援助なのである」（Aptekar＝1964：111-112）としている．

さらに，心理療法は，「精神障害（mental illness）に対する治療の一形態であった心理療法は，その範囲を拡げ，今日では精神障害者のみにかぎられなくなってきた．けれどもわれわれが心理療法に言及するとき，それはふつう深いパーソナリティの変換を意味している」（Aptekar＝1964：111-112）としている．

このようにAptekarは，3つの用語について定義し，その差異の特徴について，ソーシャルワーカーは「活動」，カウンセリングは「話し合い」であると整理しており（Aptekar＝1964：116），これらをまとめたのが図1である．

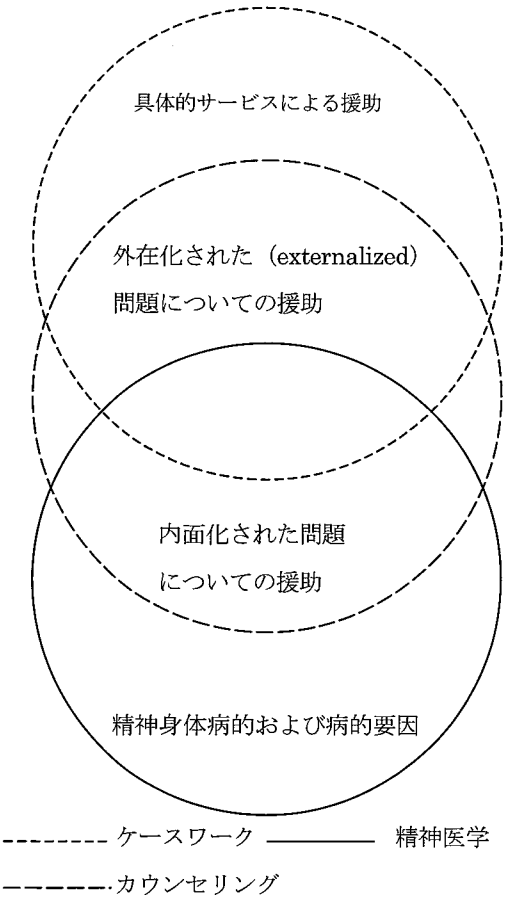

図1　ケースワーク，カウンセリングおよび心理療法の重なり

（出典）Aptekar, H. H（1955）*The Dynamics Of Casework And Counseling*. Houghton Mifflin Company.（＝1964，坪上宏訳『ケースワークとカウンセリング』誠信書房.），122.

Aptekarが分類するそれぞれの関係性は簡潔にまとめられており，理解しやすい．ソーシャルワークと心理療法の関係性についてはそれほど，言及しておらず，論点の対象はソーシャルワークとカウンセリングに絞られている．そして，一致部分が多いとしたうえで，具体的サービスの有無が，ソーシャルワークとカウンセリングの差異だとまとめている．

基本的な整理方法として，Aptekarの区別認識は，有用だと考えるが，現在は，「カウンセリングの対象は特定個人にとどまらず，家族，集団そしてコミュニティへと拡大している．そのような背景のなか，ケースによってはさまざまな社会資源などと協力関係を結ぶ必要性が高まっている」

（倉石2007：655）とあるように，具体的サービスの有無のみで完全に区分することはできないだろう．

（2）日本におけるソーシャルワークとカウンセリングの関係

岡本は，著書「ケースワーク研究」のなかで，心理的援助について詳しく述べており，関連領域との関連性についても言及している（岡本1973）．

岡本は，社会治療について「社会調査の過程で収集された資料・情報を分析・検討し，問題の性質と内容を明確化し治療計画を立案する診断過程についで，これを具体的・実現的に実行していく過程を，『社会治療』（social treatment）あるいは『処遇』と呼んでいる」（岡本1973：220-1）と定義し，さらに社会治療を，直接療法と間接療法の2つに分類し，直接療法のなかに，心理的援助を位置付けている．

心理的援助とは，「クライエントの主観的事実，感情，パーソナリティーに焦点をあてて，その障害となっている彼自身の態度，行動，人間関係の歪みを修正して環境をかえていくことを意図しておこなわれるもの」（岡本1973：224）と定義し，心理的援助を「支持的療法」，「表現療法」，「洞察療法」の3つに分類して考察した．

1つめの「支持的療法」は，「クライエントのパーソナリティーにさしたる問題はないが，惰性とかふみきりの悪さがあって，当面している問題をめぐる悩み，不安などに対して積極的な関心を示すときに，ワーカーが心理的なはげまし（reassurance）や支持（support）を与えることによって，適応への努力を促す療法である」（岡本1973：225）とし，これらのはげましと指示は，「『社会的サービスの活用による環境の操作』や他の具体的援助と並行して行われる」（岡本1973：225）と説明している．

2つめの「表現療法」は，クライエントの内的情緒的葛藤を言語化（verbalization）させ，浄化あるいは吐露（catharsis）させて，クライエントの緊張と緩和と感情の解放をはかることである」（岡本1973：226）としている．また，表現療法は，精神分析方法と，ソーシャルワーク，カウンセリングによる方法には違いがあることを指摘している．精神分析は，意識の深層に抑圧された葛藤や不快感情を再現・浄化させる除反応の技術であり，ソーシャルワーク，カウンセリングでは，Rogersの理論を援用し，クライエントの要求や要求不充足からくる拒否的感情を表現させ，非審判的態度，傾聴，統制された情緒的関与，受容，意図的な感情表現の姿勢を保持し対応することにより，クライエントは，自己内省と自己理解が深化して，他人に対する肯定的感情が表現されるようになり，これを「クライエントの人格（パーソナリティー）の変化の一部とみなすべき」（岡本1973：226）と述べている．

要約すると，この援助の効果は，クライエントの主体的行動促進と行動による人格的成長発達を意図しているとまとめることができる．

3つめの「洞察療法」は，「自己洞察あるいは自己理解の発展によって，内的精神構造とりわけ，人格の再編成化をはかり，適応のパターンを根本的に修正していこうとする療法である」（岡本1973：227）としている．ここでも，表現療法を精神分析方法と，ソーシャルワークによる方法には違いがあるとしている．精神分析は，患者の無意識に抑圧された葛藤や幼児期体験を自由連想法や催眠によって意識化させ，さらにこれを治療者が解釈，説明して，患者に治療的洞察をもたらす方法である．ソーシャルワークでは，「より現実的な問題つまりクライエントの態度，行動，対人関係のもち方，反応様式などについて，自己理解（self-understanding）を深めることによって，問題の相互関連を理解し，自分自身を受け容れ，そこから新たな適応様式を形成し，環境に適応できるよう援助する方法である」（岡本1973：227）としている．また，岡村は，社会資源の活用と社会療法すなわち心理的援助の関係性について「一体

不可分な全体的関連のなかで行われるべきである」(岡本1973：228) と言及している.

仲村は，ソーシャルワークと関連領域の関係について「ケースワークの範囲では，深層の，特に無意識の領域にまで入っての治療は，絶対に行われないし，行うべきでもない」(仲村2003：63) と述べている．仲村 (2003) は，心理療法の諸技術のなかから技術を学ぶべきで，心理療法の①指示的水準，②表現的水準，③洞察的水準のうち①指示的水準，②表現的水準までは，積極的に学ぶべきものが含まれていると指摘している．ソーシャルワーク実践の心理的援助について，経済的援助場面を具体例として「経済的扶助の提供といっても，当然その提供の過程には心理的要素もふくまれるのであり，その意味でまさに心理社会的過程なのであるから，程度の差こそあれ，そこには心理的援助が伴われているといってよいのである．ただその場合の心理的援助は，どこまでも背後にしりぞくべきもので，経済的扶助に代わるものであってはならない」(仲村2003：63) と述べている.

ここでは，生活援助と心理的援助は不可分であるが，生活援助をソーシャルワーカーが行う援助の第一義に捉えて，その周辺的援助の一つに心理的援助があると考えられている．ここでの心理的援助の意味は，Aptekar の区分と同様で，カウンセリングを意味していると言えるだろう．仲村が示した具体的事例は，社会サービスを伴ったカウンセリング業務を行うことになるので，厳密にいえば，Aptekar の区分とは異なる.

窪田は，心理的援助について，生活能力の発展・強化に位置付けており，「生活能力の発展・強化」を「生活条件の確保」と並び，福祉サービスの中核的な部分であるとして，「生活指導をその主要な内容としながら，一方にはより体系的な教育および訓練，他方にはより治療的な，家族療法，心理療法，カウンセリングなどが，相互浸透しながら境界を接している，という構造をもっている」(窪田1981：237) と教育的援助と心理的援助の関係性を整理している．窪田は，家族療法，カウンセリング，心理療法など，心理治療的な諸活動については，それぞれの専門的な教育，訓練をうけた人々が担当するのであって，通常，MSW の守備範囲ではないとしながらも，「生活指導と，より系統的な教育・訓練との境界，また心理療法やカウンセリングとの境界は，いずれも，それほど画然としたものではない．むしろその境界では，各種の相互浸透が存在しており，またそれが望ましい」(窪田1981：239) と各援助の領域の境界について述べている.

宮川は，日本におけるカウンセリングの理解のされ方は，「人間の内面的・心理的な理解を第一義的なアプローチ」(宮川2004：43) とし，「この理解は心理療法の一部，もしくは延長線上であり，ソーシャルワークの実践とは明確に峻別されるべき」(宮川2004：43) だが，「両者を区別することは容易でない」(宮川2004：53) と指摘している．宮川は，様々な分野の文献検討を行った結果，「ソーシャルワークの一部，そしてソーシャルワーカーの働きの一部にカウンセリングがあるという位置づけの見直しが可能であり，それが適切であると判断される」(宮川2004：53) と位置付けて，「ソーシャル・カウンセリング」(宮川2000：146) と表現している.

徳津は，ソーシャルワーカーが行う専門的相談援助の専門性について福祉領域での「相談・援助業務」を円滑に行うためのコミュニケーション・スキルとしてのカウンセリング業務と，「福祉領域での心理的アプローチ」，「福祉的ニーズを有する者への心理的援助」の２つに区分している.

徳津は，ソーシャルワークと，心理療法，カウンセリングの相違について「ソーシャルワークにおける相談の独自性を見ようとしても，そもそも心理的援助に関わる専門職－精神医学，心理療法，カウンセリングにおける相談業務が未だに曖昧なゆえに，なかなか浮かび上がってこない．」(徳津2005：169) が，心理療法やカウンセリングは，心理テスト等を使用し，２人きりの密室での非／

言語的コミュニケーションであり，ソーシャルワークは，社会資源という発想と大別できるとその差異について述べている．また，ソーシャルワーカーはコミュニケーション・スキルであるところのカウンセリング技術を磨くことと，必要以上の心理介入をせず，心理臨床に繋げうる知識とリファー技術の重要性について述べている（徳津 2005）．

奥田（1991）はソーシャルワークにおけるカウンセリングの位置づけについて，「カウンセリングとケースワークをほぼ同意語的に解釈する」，「ソーシャルワーク実践の方法をケースワークに限定して専門分化し，心理的側面のみを取り扱う活動の手段として，カウンセリングないし心理療法を適用してケースワーク実践を行う」等，８つに整理している．奥田は，ソーシャルワークにおけるカウンセリングの位置づけについて，たくさんの整理方法について提示しているため，どのように位置づけてよいかは，漠然とした理解にとどまる．

以上の結果を整理すると，ソーシャルワークとカウンセリングの関係性の理解には，Aptekar の整理方法を基礎とすることができる．幾人かの論者によって，さまざまな整理をされているが，大別すると，①ソーシャルワークは，カウンセリングを内包する，②ソーシャルワークは，カウンセリングを面接の一技術と捉える，と整理できる．ソーシャルワークとカウンセリングは，相互に浸透しており，その差を明確に分類することは難しい．その原因には，心理療法，カウンセリング等の各専門領域が曖昧になり，その結果，ソーシャルワークとの関係も同じように曖昧になっていることが挙げられる．しかし，各論者共に共通していることは，狭義の精神療法，すなわち心理分析等については，ソーシャルワーカーは行うべきではなく，各専門職にリファーするべきであることが挙げられる．

Ⅳ．まとめ

本稿は，医療現場におけるソーシャルワーク実践内容と専門性のあり方に対する問題意識からソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけについて検討した．

先行研究を検討した結果について整理する．ソーシャルワークにおける心理的援助とは，カウンセリングを意味する．カウンセリングは多義的であるが，主に，Rogers の「非指示的カウンセリング」を援用している．ソーシャルワークとカウンセリングの位置づけは，Aptekar の整理を基礎として，さまざまな位置づけがあるが，大別すると，①ソーシャルワークは，カウンセリングを内包する，②ソーシャルワークは，カウンセリングを面接の一技術と捉える，と整理できる．

ソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけが曖昧な理由には，心理療法，カウンセリング等の各専門領域が曖昧になり，その結果，ソーシャルワークとの関係も同じように曖昧になっていることが挙げられる．

医療機関に即して考察すると，MSW は，疾病受容や疾病による家族内，社会における役割の変化等に対して，生活面に焦点を当てたカウンセリングが必要であることが示唆される．また，具体的サービス等の仲介機能を発揮する援助の時も，第一義ではないにしろ，カウンセリングは，重要な援助業務として位置づけることが可能であろう．

但し，本稿は，社会福祉士養成課程における代表的なテキストや辞書を中心に用語の整理を行ったため，直ちに定義づけることは難しく，示唆に留まるものであり，さらに精緻化する必要がある．

今後は，本稿でふれることができなかったソーシャルワーク理論における心理的援助の位置づけ，ソーシャルワーク機能における心理的援助の位置づけについて検討し，その検討結果から，医療ソーシャルワークにおける心理的援助のあり方とその実践プロセスについて実証的研究から明ら

かにしていくことが課題として挙げられる.

文　献

Aptekar, H. H (1955) *The Dynamics Of Casework And Counseling*. Houghton Mifflin Company. (＝1964, 坪上宏訳『ケースワークとカウンセリング』誠信書房.)

岩間伸之(2010)「第11章　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職　第2版』中央法規, 189-237.

遠藤浪江(1993)「心理療法, 精神療法」小林司編『カウンセリング辞典』新曜社, 121-123.

大澤美枝子(1999)「カウンセリング」恩田彰・伊藤隆二編『臨床心理学辞典』八千代出版, 71.

大谷　昭(1997)「保健医療領域におけるソーシャルワークの現状と課題－変動する医療・福祉状況のなかで」『ソーシャルワーク研究』23(3), 4-9.

緒方由紀(2002)「カウンセリング」『社会福祉辞典』大月書店, 59-60.

岡本民夫(1973)『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房.

岡本民夫(1990)「ライフモデルの理論と実践－生態学的アプローチ」『ソーシャルワーク研究』16(2), 86-92.

奥田いさよ(1991)「第9章　社会福祉援助技術とカウンセリング　第1節　社会福祉援助技術とカウンセリング」奥田いさよ編『対人援助のカウンセリング－その理論と看護・福祉のケース・スタディ』川島書店, 187-193.

窪田暁子(1981)「Ⅲ　医療福祉－医療ソーシャルワーク」仲村優一・松井二郎編『講座社会福祉4　社会福祉実践の基礎』有斐閣, 222-255.

熊谷忠和・四方克尚(2005)『保健医療分野におけるソーシャルワーカーの位置付けに関する現状と課題』日本医療社会事業協会報告書.

倉石哲也(2007)「Ⅶ　社会福祉実践の方法　6　関連領域」仲村優一・一番ヶ瀬康子・右田紀久恵監修『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規, 654-657.

國分康孝(1990)「カウンセリング心理学」國分康孝編『カウンセリング辞典』誠信書房, 77-78.

小林司(1993)「カウンセリング」小林司編『カウンセリング辞典』新曜社, 36-38.

小松源助(1988)「心理的支持 (psychological support)」仲村優一・岡村重夫・阿部四郎・ほか編『現代社会福祉辞典』廣済堂, 300.

小松源助(1993)『ソーシャルワーク理論の歴史と展開』川島書店.

佐藤豊道(1994)「ソーシャルワーク理論における「人間：環境：時間」概念の検討」『ソーシャルワーク研究』20(1), 16-24.

榊原次郎・熊谷晶子・土屋志穂(2012)「『患者・家族から見た医療ソーシャルワーカーの評価調査』から考えるソーシャルワーク機能」『医療と福祉』92(46-1), 34-38.

佐治守夫(1999)「心理療法」恩田彰・伊藤隆二編『臨床心理学辞典』八千代出版, 278.

白澤政和(2010)「第2章　相談援助の構造と機能」社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅰ　第2版』中央法規, 27-51.

白澤政和(2011)「第2章　ケースマネジメント(ケアマネジメント)」社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ　第2版』中央法規, 21-52.

杉浦貴子(2006)「文献により探索する医療ソーシャルワーカーの「困難性」の実態」『ルーテル学院研究紀要テオロギア・ディアコニア』40, 79-94.

鑪幹八郎(1995)「心理治療」岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』ミネルヴァ書房, 361.

田畑治(1995)「カウンセリング」岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』ミネルヴァ書房, 88.

DuBois, B. & Miley, K. K. (1996) *Social Work : An empowering profession*, Allyn and Bacon.

徳津愼子(2005)「第11章　ソーシャルワークとカウンセリングーソーシャルワーカーの専門性」西尾佑吾・橘高通泰・熊谷忠和編『ソーシャルワークの固有性を問うーその日本的展開をめざして』晃洋書房，159-174.

中島健一(2011)「はじめに」社会福祉士養成講座編集委員会編『心理学理論と心理的支援　第2版』中央法規.

中村和彦(2011)「第7章　さまざまな実践モデルとアプローチⅡ」社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ　第2版』中央法規，143-161.

仲村優一(2003)『仲村優一社会福祉著作集第三巻　社会福祉の方法ーケースワーク論』旬報社.

原野広太郎(1990)「心理療法」國分康孝編『カウンセリング辞典』誠信書房，305-306.

針塚進(2011)「第11章　面接・見立て・心理方法」社会福祉士養成講座編集委員会編『心理学理論と心理的支援　第2版』中央法規，173-200.

堀越由紀子(1999)「保健医療と福祉のネットワークー「医療ソーシャルワーク」が経験してきたこと」『ソーシャルワーク研究』25(1)，17-27.

松島恭子(2007)「カウンセリング」山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典　第6版』ミネルヴァ書房，40.

松島恭子(2007)「心理療法」山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典　第6版』ミネルヴァ書房，209.

水野信義(2002)「心理療法ー精神療法」『社会福祉辞典』大月書店，305.

宮川数君(2000)『ケースワークにおける新機軸ーソーシャルワークの援助構造と技法』八千代出版.

宮川数君(2004)「ソーシャルワークにおけるカウンセリングの位置づけに関する研究」『流通科学大学論集，人間・社会・自然編』17(1)，41-54.

Richmond, M (1922) *What Is Case Work?* An introductory description, Russell Sage Foundation. (=1991, 小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規.)